

－カワウを通して野生生物と人との共存を考える（その8）－

繁殖抑制の可能性と限界

企画者 加藤ななえ 高木憲太郎（NPO 法人バードリサーチ）ほか

特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(カワウ)が2004年に環境省から発行された。それを受けて、カワウによる被害問題に対処するために広域で連携する必要性があり、「関東カワウ広域協議会」が発足した。また平行して中部・近畿地方でも同様に広域協議会の設置の準備が進められている。

特定鳥獣保護管理計画は「被害防除対策」「個体数管理」「生息環境管理」の3つの柱からなっているが、被害に苦しむ漁協の方などからは、早急な個体数調整が強く望まれている。しかし、今まで各地で行われてきた銃による捕獲(駆除)では、「被害防除対策」としての追い払いの効果はある程度認められているものの、個体数調整としては期待されるような効果が得られていない。

このような情勢と相前後して、3年くらい前から、各地のコロニーで「繁殖抑制」を試みる実験が始められている。この試みはマスコミなどにも取り上げられ、期待をかける人々も多く、この方法を取り入れようと検討している行政も増えている。そこで、今回の自由集会では、この「繁殖抑制」の保護管理における位置づけや、技術、モニタリング方法等の情報を整理したいと考えている。

カワウで行われている繁殖抑制には、「擬卵(偽の卵を本物とすりかえる)」と「オイリング(油や石鹼液をかけて卵を窒息させて殺す)」の方法がある。この実験を行っている方々に発表していただく。また、カワウの移動能力や繁殖特性、地域性などの面から考察される、「繁殖抑制」の可能性と限界についての議論をしたい。

発表の予定リスト

- ・琵琶湖竹生島コロニーでのオイリング
- ・昆陽池コロニーでの擬卵
- ・山梨下曾根コロニーでの擬卵
- ・長野佐久コロニーでの擬卵

